

# ちよつとちがうぜ 中国で農業

土下信人 (つちした・のぶひと)

1949年愛知県生まれ。95年、沖縄で(有)土下を設立。組織培養技術を活用した苗生産・販売を中心とした農業のコンサルタント業務を開始。上海で組織培養施設への指導を行ない、2003年同地で組織培養会社、上海百奥微繁植物有限公司を設立。HP「大きな国で」を開設。

<http://blog.livedoor.jp/touxia/>

## 止まらない役人天国

中国には、さまざまな病巣がある。そのなかでも最も大きなものは、やはり利権に群がる役人の存在だ。園芸分野で中国進出を狙う日本企業の依頼で、役所への許認可申請に関するコンサルティングをした際にも利権を求める役人に手を焼いた。

この時の日本企業は上海でも有名な大企業だった。その案件ということで、申請に行くと役所の対応自体は手厚いものだった。だが、話は一筋縄ではいかない。きちんとした肩書きのある人物をはじめ、何の担当なのかよく分からない様な人がやってきてはこう話すのだ。

「すぐに許可をおろすこともできるが、それには200万円(約2400万円)必要だ」

提示される金額がどれも同じなのをみると相場が決まっているのだろう。仮に要求に応じたところで本当に担当部署のボスにお金が渡るとかどうかは疑わしい。

日本の企業はコンプライアンス上、こういう要求に応じることができない。度重なる資料提出を求められる正規ルートで申請を進めることとした。しかし、それでもある程度の期間が経って追加資料の要求がされると、それを見計らったように別のと

ころから、「お金を出せばすぐに許可を出す」という話がある。どう考えても役人同士が組織的に動いているとしか思えない展開だ。

結局、正規ルートで進めても金銭の負担は避けられなかった。

北京の担当部署を訪問する際には、上海の所轄の担当者を連れて行く。その時、彼らは北京の担当者に贈るための「お土産」を購入するのは慣習になっている。これが尋常ではない。1ケース10箱入りで2000元(約2万4000円)もする高級タバコを5ケースも購入するのだ。

このお土産はタバコを吸わない人たちにも渡される。担当部署のそばにはパチンコの景品交換所よろしく、タバコや酒などの贈り物を換金できる場所があるのだ。北京の役人に買ったタバコは希少価値があり、買値より高く引き取ってくれるのだという。そのようなシステムが当たり前のようになっている。

さらに北京の担当部署からは昼食の誘いもあり、指定された料理店にいったみると同行した現地スタッフでさえ目をむくほどの代金を支払うはめになった。正規ルートで許可を得るにしても、ちびちびと金銭をむしりとられる。役人天国は止まらない、止められないのである。

## 共産党幹部の放蕩息子

役人がつくるこの病巣は、彼らに身近なところにも別な形で広がっている。昆明の日本料理店でたまたま出会った中国人の若者の振る舞いが、そんなことを感じさせた。

この若者と出会った時、彼は数人の若者を引き連れ、高そうな料理ばかりを次々注文していた。ひよんなことから私も宴席に誘われご相伴に預かると、若者のほとんどは大学生で、彼だけが30歳なのだという。年齢の割に羽振りがいいようで、この店の代金も彼が支払ってくれた。

食事を終えるとデイスコに誘われた。店について通されたのは、店内を見渡せるVIP席だ。そして彼が「まず、これで飲もう」と鞆から取り出したのは、1万円分(約12万円)の100元札の束だった。

どんな仕事をしているのか聞いてみると、「バイトが賄賂でもらった汚いお金は使わないといけない。それが自分の仕事」だと言う。バイトとは彼の母親のことで、雲南省の共産党幹部なのだという。日本に行っている父親には愛人がいて、母親は若い男といちゃついていて、共産党幹部の息子として生まれたのが悲劇だと嘆いてみせた。利権がつくる病巣は、若者の心も蝕むのだ。